

## エッセー

## 全カリ総合系科目との関わり

観光学部教授 豊田 由貴夫

全カリでは総合系の科目をよく担当させてもらった。私の専門というわけではなく、あくまで「余技」のような位置付けの「睡眠と文化」については、2009年度から今年度まで11年間、総合B科目、主題別B科目、コラボレーション科目と科目群の名称は変わり、科目名も「睡眠の文化を考える」、「睡眠を科学する」、「睡眠文化論」と変えてきたが、基本的に同じような内容を扱ってきた。また、これとは別にこれも専門というわけではなく「余技」の一つなのだが、「東京ディズニーリゾートの文化論」を2008、2009年度に行っており、やはりコラボレーション系の科目「現代社会とジェンダー」、「婚活現象を考える」というのを3回やっている。一時期は、このコラボレーション系の科目を年に2科目やっていた時期が続いた。これを1年に3科目をやってもよいと考え、当時は（現在でも？）1年間に一人上限2科目までという規則があったので、3科目をやらせてもらえないかと、当時の全カリ部長の青木康先生に相談したこともあった。後で考えてみると、3科目もやったら専門科目の授業ができなくなるというのに気が付き、結局これは実現しなかった。

基本的に自分で聞きたい内容は学生も聞きたいだろうと勝手に考えて、その内容をゲストスピーカーに依頼して構成するというのをよくやっていた。したがってゲストスピーカーの人には私がよく質問をするのだが、全カリのコラボレーション系の科目の趣旨である、「教員同士の議論を学生に見せる」ということには合致していたと思う。

「睡眠文化論」の主な趣旨は、睡眠に関する自然科学的側面だけでなく、文化的側面について考えるというものだが、同時に睡眠の重要性を知ることと、睡眠に関する基本的な知識・考え方を身に付けることを目的としていた。そんなことから受講生の関心も高いようで、この科目は全カリの総合系科目の中でも人気科目の一つだった。ほとんど毎年、履修者は抽選となっていて、300人という受講者数が10年以上続いているので、履修者の累計は3000人以上になっているはずだ。

授業はできるだけ受講生の視点で行い、ゲストスピーカーの方々には1時間弱のお話をいただき、その後私と兼任講師の方が質問をし、その後学生の質問の時間をとる。大教室ではなかなか質問がしにくいのが、質問が出やすい雰囲気作りを心掛けていると、毎回数人は質問が出る。

毎回、学生にリアクションペーパーを書いてもらっているが、その中で印象に残っているものがある。「大学院の先輩に、立教で一番面白かった授業は何ですかって聞いたら、この睡眠の授業だって言われました。とってみて、それが嘘でないということがよく分かりました」というのがあった。

課題もある。まずはゲストスピーカーの確保の難しさである。各界の専門家をそろえようと努力して、通常は来てもらえそうもない人を、関係者のネットワークを通じてお願いして来ていただいている。海外在住の方も、来日する日程に合わせて授業をお願いしている。これまでフランス、ドイツ、オーストラリア、アメリカの研究者に担当をお願いした。「大物」の先生になると1回や2回は来ていただけるのだが、ずっとやっていただくのは難しい。

また、大人数の受講生の管理も課題である。大教室では私語、内職、居眠り（睡眠の授業だが、授業中の居眠りは減点しますと言っている）、途中退室などがある。授業の最初に注意しているのだが、せっかく来ていただいているゲストスピーカーの前でこれをやられると、主催者側は面目丸つぶれである。ゲストスピーカーが話している間に私は教室の後ろの方を見回って注意するのだが、堂々と文庫本を読んでいた学生がいる。注意すると、意外そうな顔をされる。私、何か悪いことをしていますか、という雰囲気である。

そしてもう一つの大きな課題は採点である。初期はレポートにしていたが、300人分のレポートは膨大な量になり、段ボール1箱分となる。これを読むのはやはり膨大な時間がかかる。最近では筆記試験にして選択式設問を含むようにしたが、それでも中心は記述式にしてあり、複数の設問を出しているため、相変わらず膨大な時間がかかる。集中して4日間ぐらいかかり、点数の入力、最終的な成績判定を含めるとほぼ1週間がつぶれることになる。

実は私は今年度で定年になるので、この科目の担当は終わることとなる。次年度以降はコミュニティ福祉学部石渡貴之教授にコーディネーターをお願いしているのだが、引き続き何らかの形でこの科目に関わることを予定している。

とよだ ゆきお

#### 参考文献

豊田由貴夫「聴きたい授業を自分で作る」『アクティブな学びをデザインする：4つの授業をめぐる対話』立教大学大学教育開発・支援センター、大学教育開発研究シリーズNo.11（2010年）、pp.23-34.